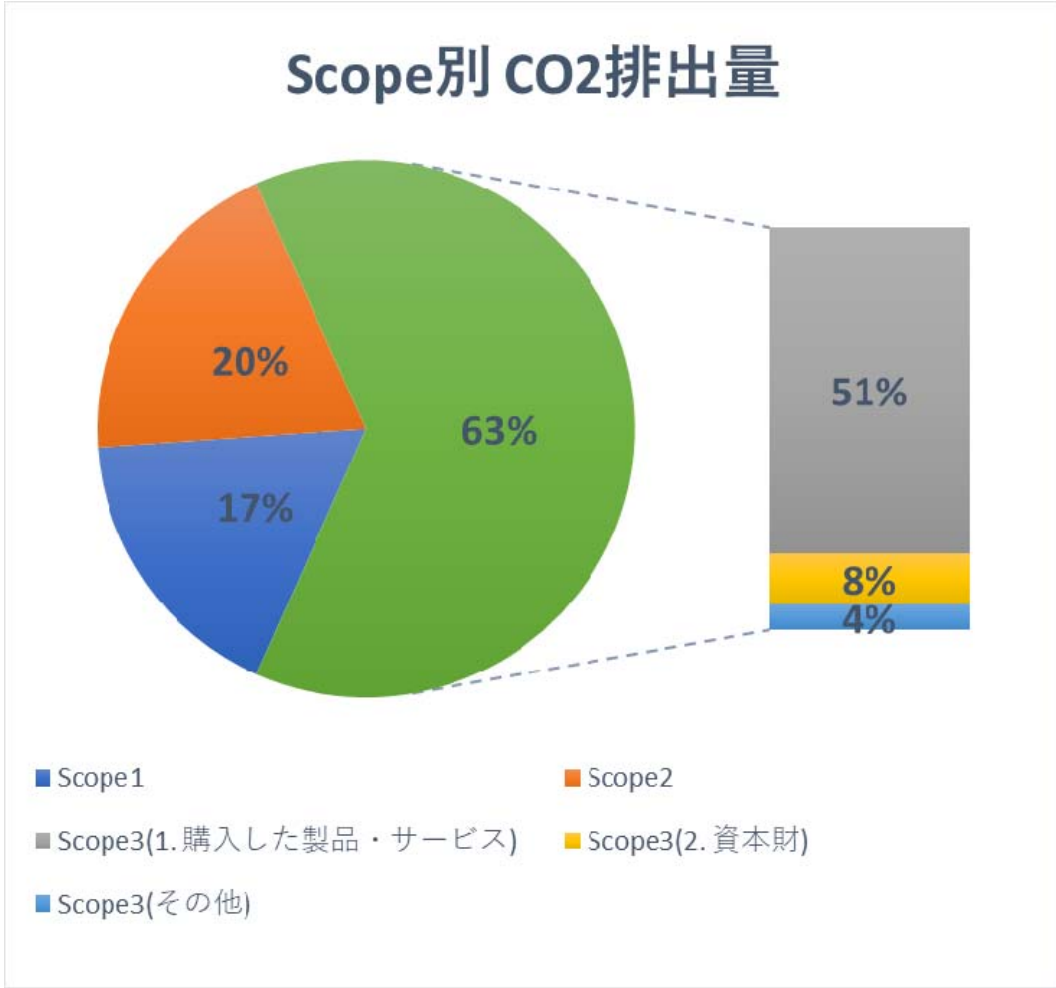


# 塩野義製薬株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"><li>● 業種：製造業(医薬品)</li><li>● 事業概要：医薬品、臨床検査薬・機器の研究、開発、製造、販売など</li><li>● 事業規模：売上：344,677百万円、従業員数：約5000名</li></ul>
2.削減目標案	<p>&lt;Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み&gt; 2030年までに2017年比でScope1 + 2GHG排出量を20%削減</p> <p>&lt;Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み&gt; 「購入した製品・サービス」の90%に相当するサプライヤーに2022年までにCO2排出削減目標を設定させる</p>

# 塩野義製薬株式会社

項目	内容															
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Scope 1・2・3の排出量の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE1 : 46,409 [tCO2]</li> </ul>														
	 <p style="text-align: center;"><b>Scope別 CO2排出量</b></p> <table border="1"> <caption>Scope別 CO2排出量 (割合)</caption> <thead> <tr> <th>Scope</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Scope 1</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>Scope 2</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>Scope 3 (その他)</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>Scope 3 (1. 購入した製品・サービス)</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>Scope 3 (2. 資本財)</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>Scope 3 (その他)</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	Scope	割合	Scope 1	63%	Scope 2	20%	Scope 3 (その他)	17%	Scope 3 (1. 購入した製品・サービス)	51%	Scope 3 (2. 資本財)	8%	Scope 3 (その他)	4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE2 : 52,360 [tCO2]</li> </ul>
	Scope	割合														
Scope 1	63%															
Scope 2	20%															
Scope 3 (その他)	17%															
Scope 3 (1. 購入した製品・サービス)	51%															
Scope 3 (2. 資本財)	8%															
Scope 3 (その他)	4%															
<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE3 : 170,650 [tCO2]</li> </ul> <p>目標の対象セクター :</p>																

# 塩野義製薬株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 気候変動に伴う自然災害(台風、集中豪雨、洪水など)の増加により、自社や他社サプライヤーの工場が被災し、生産・供給体制維持が困難になる可能性がある。</li> <li>● 平均気温上昇に伴い、感染症ならびに熱帯感染症が増加する可能性があり、抗微生物薬に強みを持つ弊社にとっては、この分野での貢献につながることを期待される。</li> <li>● CO2排出量削減を含む気候変動対策やSDGsへの参画を積極的に行うことにより、各ステークホルダーに対する企業価値の向上が期待される。</li> </ul>
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 科学的な根拠を持ったCO2削減計画の策定、および、確実な実施をすることにより、SDGsに積極的に参画する姿勢を明確に示し、また、それらを通じてCDP等の評価を向上させることにより、各ステークホルダーに対する企業価値を向上させる。</li> <li>● SBT設定により、妥当性の高い目標を示すことで、社内の意思統一を円滑に進め、CO2削減を加速させていく。</li> </ul>

# 塩野義製薬株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"><li>● 省エネに関する委員会において、SBT設定やそれに伴う省エネ対策の強化の必要性について理解を得た。</li><li>● 統括部門がSBT水準の大まかな目標を示し、各部門で具体的な目標を算定する。</li><li>● EHS関連責任者が参加する委員会で目標を設定し、経営会議にて経営層の承認を得る。</li></ul>
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● 燃料転換が完了しており、Scope1の大幅な削減は難しいと考えられるため、再生可能エネルギーの利用(太陽光発電設備の設置、CO2排出係数ゼロ電力の導入など)を進め、Scope2の削減を積極的に行う必要がある。</li><li>● Scope3目標に関連して、環境保全の項目を含む「サプライヤーに求める行動規範」を求め、CSR活動の一環として環境対策(CO2排出量削減等)の実施を要請している。今後は、サプライヤーとの協働を更に進めて、SBTの必要性を理解してもらい、CO2排出量削減の目標設定を確実に進めていく必要がある。</li></ul>